

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	大阪大学	整理番号	L02
プログラム名称	未来共生イノベーター博士課程プログラム		
プログラム責任者	星野 俊也	プログラム コーディネーター	志水 宏吉
<p>1. 進捗状況概要</p> <p>初期に指摘した運営上の問題点、例えば、語学教育の質の向上、海外留学の弾力的運用、他の専攻との時間割上のコーディネートなどは、逐一解消され、博士後期課程2年生に進級した一期生を筆頭とし、学生達に成長の跡が認められる。</p> <p>とりわけフィールドワークについては、意見交換した学生のあいだで、元々抱いていた問題意識とは異種の問題が現場においては重層的に出現してくることが体験できた点に意義があった等との指摘があり、学生の満足度が高い。また、多様なフィールドワークが用意されており、これらについては量、質ともに高く評価できる。</p> <p>他方で、グローバルリーダーの創出という本プログラムの目的達成という観点からは、成果がすぐにはあげられそうにない状況にあり改善すべき課題となっている。具体的には、文系の学生は結局、主専攻での研究ポストを目指す者が多く、また、理系の学生では、本プログラムの成果である多文化コンピテンシーが自分の研究に直接的に結び付かないようである。そのため、2年半でプログラムを離脱して企業に就職したケースもあるが、本プログラム修了後の企業での活躍の場が限定される見込みが高く、かつ、5年で博士号を取得した修了生を使いこなせる企業があるように思えないのが現状である。</p> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪大学の大学院進学者の中から入学者を募っていることから、企業向けではなく研究者志向の学生が多くなっていると現状分析できる。したがって、募集の時点から、グローバルリーダーを志向する者を集める努力が必要ではないか。 ・多文化コンピテンシー自体に対するニーズは、日本国内でもあると考えられる。例えば、教育現場での言語力不足問題、近隣のゴミ捨て・洗濯トラブル、防災・避難等の地方自治体の仕事や各種マイノリティーをサポートする NPO 活動等が挙げられる。しかしながら、5年かけて博士号を取得することが前提とされる本プログラムの修了生となると国際機関や国際協力機関以外では想定される活躍の場が限られるという現状があることから、本プログラムの成果をより発揮できるキャリアパスを学生と一緒に開拓していただきたい。例えば、企業では海外進出の際にその国に強いコンサルタントをプロジェクトごとに雇い、常勤では採用しない傾向にあるが、企業が雇いたくなる人材育成という観点からの戦略を立てていただきたい。 			